

生徒が大人になった時、どのような社会になっていて、そこで彼らが活躍するにはどのような力を育むべきなのか！

社会や人生を切り拓く資質・能力の育成

生涯に渡って能動的（アクティブ）に学び続けられる力

質の高い学びの実現

《育成資質・能力の三つの柱》

- ・実際の社会や社会の中で生きて働く「知識及び技能」の習得
- ・未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成
- ・学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間力等」の涵養

生きて働く知識・技能
知識・技能があるのではなく、習得した個別の知識を既存の知識と関連付けて深く理解し、他の学習や生活の場面で活用できる知識・技能のこと

何ができるようになるか

【目指す授業の具体】

- 一つ一つの知識がつながり、「わかった！」「おもしろい！」と思える授業
- 見通しをもって、粘り強く取り組む力が身に付く授業
- 周りの人たちと共に考え、学び、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業
- 自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かす力を育む授業

求めるものは高く
やりきらせる

教えたことは、
振り返りに表れる！

見方
考え方

何を学ぶか

どのように学ぶか

各教科等で育む資質・能力の明確化
(本時の授業でつけたい力を明確にする)
・目標や内容を構造的に示す

「主体的な学び」
子供が学びに興味や関心を持って向かい、次の学びにつなげること
(そのためには、「振り返り」をして身についたことを自覚させることが大切)

「対話的な学び」
他者の考えと交流しながら自分自身の考えを広げ、深める学び

「深い学び」
各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる学び

目標に準拠した評価

学習評価の観点 (3観点)

知識・技能	(例) ○○を理解している/○○の知識を身につけている ○○することができる/○○の技能を身につけている
思考・判断・表現	(例) 各教科等の特質に応じ育まれる見方や考え方を用いて探究することを通じて、考えたり判断したり表現したりしている
主体的に学習に取り組む態度	(例) 主体的に知識・技能を身につけたり、思考・判断・表現をしようとしていたりしている

授業改善の視点
振り返りから授業改善へ

見える化

実施するために何が必要か

カリキュラムマネジメント

共働行動

教育課程編成 指導体制の充実(学校研究) 教材研究(個々・部会) 家庭地域との連携

「教科を学ぶ本質的な意義」⇒ 教科の特質に応じた「見方・考え方」はその中核

教科の「見方・考え方」… 課題を見出して解決策を考える過程で、物事を捉える視点や考え方